

学校教育目標		教育スローガン～大牟田に生きる子どもたちを育む～ 豊かな心をもち、将来に向かって、たくましく生きる生徒の育成		重点目標	子どもたちが、 Ⅰ 自らの考えをまわりに表現できるようにする。 Ⅱ 自らの将来の生き方を意識させる。			
評価計画				自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果と課題)		評価	コメント	次年度における改善策(案)
重点目標	学ぶ意欲と基礎学力の向上	生徒が見通しをもてるようなわかりやすい『めあて』を提示する。	『生徒授業アンケート』『めあてがわかりやすい』と回答した生徒が、80%以上。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高め、課題解決の見通しをつける「めあて」と振り返る「まとめ」を校内研で推進しているが、生徒の発言をなかなか引き出せないことが課題である。意欲的に発言・発表、また思考する生徒は少ない。 ・授業中指示や発問が多く、学習意欲を高めるための声かけがまだ不十分であった。 ・家庭学習習慣をつけるため自学ノートや担任からの課題を出したり、学習委員会でモデルノートを示したりしているが、取組が統一できておらず家庭へ浸透できていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された生徒アンケート結果等の各資料と成果指標を見たとき、学校のがんばりがよくわかり、もう少し高い評価でもよいのではと思った。 ・取組指標がより具体的になると、さらに成果が上がるものと思った。 ・生徒は「めあてや授業はわかりやすい」と答えている。 ・学習意欲は良好である。家庭学習習慣が大切と思う。 ・家庭学習習慣について、家庭と塾の勉強を区別するかどうかなど、親の理解が統一されていないのでは。評価はもう少し上ではないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい「めあて」を設定し、意欲を高めるのは当然だが、さらに教材・教具の工夫が必要である。 ・生徒同士の共感的人間関係を作るとともに学習集団づくりを組織的に行う。 ・家庭学習習慣をつけるための取組を家庭や小学校と連携し成果を上げたい。(家庭学習強化週間の設定・保護者への啓発・小中連携会議)
		授業の中で、できるできないにかかわらず意欲を高める言葉かけをする。	『市学校生活アンケート』『学習意欲』学校平均が0.5以上。	3		A		
		授業の中で共感的人間関係をつくり、生徒からの質問を受ける。	『生徒授業アンケート』『先生に質問しやすい』と回答した生徒が、80%以上。	4		A		
		わかりやすい授業をめざし、教材教具を準備したり学習プリントを工夫したりする。	学力状況調査において県平均以上。	2		A		
		家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。(宿題・自学ノート・学級での指導・啓発等)	『保護者アンケート』『家庭で勉強する習慣が身につけている』と回答した保護者が、80%以上。	2		B		
に関する評価	生徒の将来に目を向けた指導	特別活動や道徳の時間を中心に将来の生き方を考えさせる指導をする。	『生徒学校生活アンケート』『自分の生き方を意識する(学年別目標)』と回答した生徒が、80%以上。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で1～3年まで体験活動を中心に系統的に取り組んでいる。なかまとの協力しながら計画から発表までで自己存在感を持たせることができた。しかし、教師側のESDに対する意識がまだ低い。 ・「中学生と進路」を使っでの指導はしているが、効果的な活用に至っていない。 ・校内研の公開授業を中心に生徒同士が考えを交流する場面の設定をした。 ・GTによる指導の機会を増やし、広い視野をもたせることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの将来の生き方については、中学1年生からの意識付けが必要ではないか。 ・資料の数値と成果指標を比較すると、もう少し高い評価をしていいのではと思う。学校はよく頑張っていると思う。 ・ESDの取組については、生徒アンケート結果ではかなり上位であり、評価「3」にしてもいいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験から発表まで“させられている”生徒がまだ多数いる。体験を通し自分の興味関心特性を感じ取り、ひいては自分の生き方まで考えさせたい。 ・今後も総合の時間で生徒が人や地域とのつながり考える場と時間を確保し、全員が表現する機会をつくる。 ・特活や道徳、総合における「将来の生き方」を考える時間を確保するとともに、3年間を見通したキャリア教育で生徒の将来設計を支援する。
		全教育活動の中で自己存在感をもてるような自分の考えを発表したり、意見を交わしたりする場面を設定する。	『生徒学校生活アンケート』『自分の考えを表現できる(学年別目標)』と回答した生徒が、80%以上。	3		A		
		『生徒授業アンケート』『自分の意見や考えを発表する場面がある』と回答した生徒が、80%以上。	3	A				
		体験活動においてESDに取り組み、他との関わりを認識しつながりを尊重できる生徒の育成を図る。	『生徒学校生活アンケート』『他の人との関わりや生き方を学ぶことができる』と回答した生徒が80%以上。	2		B		
生徒一人ひとりを大切に する生徒指導	共感的立場に立った生徒指導を行い、生徒からの相談には快くのる。	『生徒学校生活アンケート』『教育相談や面談等、先生に相談できる機会がある』と回答した生徒が80%以上。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活や行事を通し学級に自分の居場所を作ることで自己の存在意義を感じ取らせることができたと思う。 ・SCとの校内ケース会議を含め、関係機関との連携等は取っているが、不登校生徒数は減っていない。 ・生徒指導は担任任せでなく、組織的に進める体制ができてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒への対応もよくできており、もっと高い評価でいいのではと思った。他の関係機関とも連携してよくされている。落ち着いた授業態度で生徒一人一人が大切にされていると思う。 ・地域との情報交換も必要である。日頃の信頼関係が一番だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒のつながり、生徒同士のつながりを強めるため、積極的生徒指導を進める。 ・再編を控えた最後の年度になるので、行事等を通して、学年全体、学校全体で一つのを創り上げる感動を味わわせる。 	
	行事や授業、その他の活動場面で、生徒の自尊感情を高める工夫をする。	『市教委学校生活アンケート』『自己概念』学校平均0.5以上。	3		A			
	不登校傾向生徒・不登校生徒への連絡を取り、個に応じた指導や関係機関との連携をとる。	『生徒学校生活アンケート』『いじめや暴力がなく安心して生活できる』と回答した生徒が、80%以上。	2		B			

◇ 学校評価について

・【自己評価】	4: 目標達成(90%以上)	3: ほぼ達成(70%～90%)	2: もう少し(60%～70%)	1: できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】	A: 自己評価は適切である	B: 自己評価はほぼ適切である	C: 自己評価は適切でない	D: 自己評価は不適切である

評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	次年度における改善策(案)
総 括 的 的 評 価	教育課程・学習指導	教育課程の編成・実施	3	少人数やTT授業の教科を増やし個に応じた指導を心がけている	B	指標の具体化が必要だと思う	小学校と連携した授業規律を確立する
		学習指導の工夫・改善	3		B		
	進路指導	キャリア教育	3	総合では各学年で体験活動を年間計画に基づき工夫を加えながら実施している	A	指標の具体化が必要だと思う	体験活動とのつながりを意識した道徳・特活での指導計画を立案し実践する
	生徒指導	不登校対応	2	個に応じ、関係機関との連携や家庭訪問を実施しているが、不登校生徒数は減少していない	A	いじめや不登校が0になるように取り組んでほしい。小学校との連携を早いうちにとるべき。	積極的に生徒に関わり共感的人間関係を作る
		積極的生徒指導	3		A		
	保健管理	健康教育	3	年間計画に基づき健康教育を行い、健康安全への意識を高めている	A	適切に評価されている	今後もGTを活用したり保健委員会活動を活性化したりして啓発する
	安全管理	安全対応能力の向上	4	計画的に防犯教室登を行い、教員・生徒の危機管理意識の向上をめざしている	A	生徒のアンケートから「4」が適切。日頃からの積み重ねが大切であると思う。	SNSについての正しい知識を持たせ、自分の身を守る意識を高めさせる
		安全管理	3		B		
	特別支援教育	支援体制の充実、支援計画の作成・実施	3	支援が必要な生徒の情報がコーディネーターに伝わり、各立場から働きかけがあった。	A	子供の居場所がしっかり確保されよかった	学年を越えた情報の共有だけでなく事例研究も含めた研修会を実施する
	組織運営	運営・責任体制	3	運営委・生指委の会議内容を校内回覧板で知らせている	A	今後も校務システムの活用の推進をお願いします	校務システムの回覧板・掲示板の活用を日常化する
能率的運営		4					
研修	主題研究の推進	4	週時程に研推が確保され、計画的に進められたが、自己研鑽のための自主研修は少ない	B	小中で協力して何かできればいいです。	今後も全員の公開授業を継続する	
	校外研修の推進	2	B				
教育目標・学校評価	学校教育目標の設定	3	評価計画に基づき、自己評価・生徒・保護者による学校評価を実施できた	A	教師一人一人に意識させる取組が次の目標だろう	月重点目標を職員・生徒へ周知し、学級指導に生かす	
	学校評価の充実	3		A			
情報提供	発信・広報	4	HPの更新をこまめに行い、学校通信とともに保護者へ啓発している	A	丁寧な対応をされている。学校再編に関する情報提供をお願いしたい。	学校からの配布物が確実に家庭に届く指導を徹底する	
保護者、住民等との連携	学校開放	3	文化祭等の参観が非常に多く、右京校区体育祭へ多くの生徒が参加した	A	地域行事等の協力ができている。体育祭への参加と積極性があり、「4」が適切	右京中最終年度となるので多くの方に来校していただく機会を作る	
	行事への参加	3		B			
教育環境整備	校舎内の環境整備・美化	3	全員が清掃指導にあたりとともに生徒作品掲示や除草に努めている	A	敷地内の美化、いつも感心している	学びの跡や学校歴史に視点を置いた掲示を継続する	
	校舎外の環境整備・美化	4		A			

◇ 学校評価について

・【自己評価】	4: 目標達成(90%以上)	3: ほぼ達成(70%~90%)	2: もう少し(60%~70%)	1: できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】	A: 自己評価は適切である	B: 自己評価はほぼ適切である	C: 自己評価は適切でない	D: 自己評価は不適切である